

委員会宣言（案）

本日、私たちJR東日本労働組合長野地方本部は「JA長野県ビル」において「第10回地方委員会」を開催し、2023春闘勝利、組織強化・拡大、業務問題の解決などを柱とした運動方針を満場一致確認した。

JR東日本はこの間「変革2027」の下、様々な施策の提案・実施を矢継ぎ早に進めている。ジョブローテーションによって担務変更や兼務、兼駅、それによる遠距離通勤など社員の負担は増すばかりであり、ここ最近の離職増加を見ても働きがいや仕事の魅力が向上しているとは言い難い。会社に対するチェック機能は労働組合でなければ果たせない。私たち東日本ユニオンは急激に変化する職場環境や問題点をチェックし、労働者の立場からその責務を果たしていく。

JR東日本は1月31日に「第3四半期決算」を発表した。連結決算ではコロナの影響から回復して運輸事業が大幅に増収になったことから営業収益は2期連続の増収、3期ぶりにすべてのセグメントが黒字転換となり、増収・増益であった。この黒字化の実現は観光流動、インバウンドの復活はもちろんであるが、その中で様々な知恵を絞り、会社施策を愚直に推し進めてきた労働者の頑張りに他ならない。

今2023春闘はすべての組合員が要求実現に向けた川柳や、組合未加入者の声を直接聞くたたかいを進めている。そうした取り組みの中から、「物価上昇に対する生活費の圧迫」「担当業務や企画業務が増えても賃金は上がらない」「業務量に応じて賃金が上がらず、モチベーションが保てない」など、悲痛の声が挙がっている。更にはマスコミを通じて明らかになった会社経営幹部の「賃上げ慎重」姿勢に対し、不満・疑問・怒りの声も噴出している。私たちは2021春闘の「奪われた係数2」を忘れない。今こそ奪われた賃金を取り戻し、2年連続「ベア0」で抑え込まれた労働者への相応の配分として堂々とベースアップを要求し、「2023春闘」での満額獲得を目指しすべての労働者の力を結集させていこう。

松本支部青柳塾を中心に「青柳事故研修」を2月9日に開催した。青柳事故から25年が経過した。組織、業務が様々変革される中で本当に「安全」の確保ができるのか。私たちは急激に変化する職場環境においても二度と同じ事故を起こさせないために労働組合の立場から「安全」をつくりだしていく。

東日本ユニオンの更なる組織の強化・拡大を勝ち取り、安全で安心して働くことのできる会社を目指して全組合員でたたかいに決起しよう！

以上、宣言する。

2023年2月24日
JR東日本労働組合
長野地方本部
第10回地方委員会